

公益財団法人 School Aid Japan

SAJは、ワタミグループの社員の発案から設立された団体です(NPO法人として2001年に設立)。スタート時点ではワタミグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方をはじめ、多くの企業様からの支援により運営されている公益財団法人です。

SAJでは、皆様からいただいた寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則として活動しています。また、何の支援に使われたのか、その用途を明確にしており、「現地の現実が変わったことを確認できる支援」を行っています。



公益財団法人
School Aid Japan
事務局長
住田 平吉

公益財団法人 School Aid Japan 2011年度の活動および2012年度計画について

「公益財団法人 School Aid Japan」の2011年度事業は、全ての事業において順調に活動が終了しました。行った活動は以下の通りです。(1) 学校建設：カンボジア6州に15校(小学校8・中学校7)を建設しました。(2) ふれあいサポートプラン：制服と文房具をコンポンチュナン州の14校926人に支援しました。(サポーター93人を募集し、プロフィールと写真・手紙の交換をしました。)(3) 食糧支援：【給食支援】コンポンチュナン州とポーサット州のSAJ建設小学校のうち28校、9,068人に実施しました。【お米支援】10Kg/月のお米をコンポンチュナン州14校695人に支援しました。(4) 孤児院運営：孤児77人が在園、高校生は3人になりました。「勤労・勉勵・思いやり」を徹底しています。(5) 就労支援：水の抜けない水田造りとレモングラスの試験栽培の実施、鶏の飼育を行いました。◎2012年度活動計画は、以下の通りです。

(1) 学校建設は15校を建設し、内閣府の認定を得て幼稚園舎の建設を始めます。(5) 就労支援(農業)は水稲の二期作を行い、レモングラスを栽培します。また、内閣府の認定を得てから、作物の販売を始めます。その他の事業は以下のことを計画しています。(2) ふれあいサポートプラン：10月の新学期に人数が決定します。ポーサット州では試験的に支援を実施します。(3) 食糧支援：お米支援をポーサット州で試験的に実施します。(4) 孤児院運営：高校1年生が8人誕生し、高校生は11人になります。中学生以上には「農業研修」を1週間実施します。

活動目的

「一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」
子どもたちの夢を育み、健全な成長を促進すると共に、将来、自身に備わった素晴らしい能力に気づき、それを伸ばし、そして、社会に貢献できる子どもたちを育成する事を目標にして、この活動を行います。

活動方針

- 「School Aid Japan」教育支援の3つの方針
1. 学校教育を充実させる
 2. 地域に根ざした支援
 3. 点から面への支援の広がりを目指す

学校建設支援事業

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。SAJでは、カンボジアなどの海外の国において、学校の無い地域には小学校や中学校を建設し、倒壊の危険にある校舎や老朽化した校舎の再建築を行っています。

2012年3月末現在、SAJが建設した学校は、カンボジア・ネパール合わせて累計156校となりました。2012年度はカンボジアで15校の建設を予定しています。

就学支援事業(ふれあいサポートプラン)

開発途上国においては、貧しさのために未就学の子どもや、入学しても途中退学せざるを得ない子どもたちが多くいます。SAJでは、貧しい家庭の子どもたちへの、就学支援(制服1着・ノート・ボールペンなどの文房具)をすることで、学校で学習が続けられるように支援しています。2011年度は、SAJが建設した学校14校926名の子どもたちに制服、ボールペン、ノートを支援しました。

就学支援は、これまではコンポンチュナン州だけで行っていましたが、今後はポーサット州に拡大していくことを計画しており、2012年10月より、ポーサット州コムオー小学校で、試験的に就学支援を行う予定です。



カンボジアでSAJが建設した新校舎

贈呈用のノートとボールペン

食料支援事業

開発途上国では、貧しさのために1日1回の食事がとれない子どもたちや、食費を稼ぐために、学校に入学せずに働いていたり学校を休んで働いている子どもたちもいます。そのような子どもたちに、学校での学習が続けられるよう食料支援をしています。

2011年度は、就学支援対象者のうち(WFPから支援を受けられない子ども)、14校695人に月10Kgのお米を支給しました。また、WFPの協力を得て朝給食を提供しており、2011年度は28校9,068人に提供しました。さらに、お米の保管方法や計量の仕方、帳簿のつけ方、盗難防止策などについても指導をしています。

お米支援は、今後はポーサット州に拡大していくことを計画しており、就学支援事業と同様、ポーサット州コムオー小学校で、試験的に支援を行う予定です。



お米支援

給食支援

孤児院建設・運営事業

SAJは、2008年カンボジア・ポーサット州に、SAJ初の孤児院「夢追う子どもたちの家」を開園しました。「80名の子どもたちの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習室や、働く場所として畑・果樹園などをつくり、しっかりと生活習慣とあるべき人格を身につけ、自立するまでのサポートを行っています。

2012年5月現在、77名の子どもたちが生活しています。



孤児院「夢追う子どもたちの家」全景

食事の様子

就労支援事業(農業)

SAJは、2009年にカンボジアの農業技術の向上と雇用の拡大、生活の安定を目指し、12.6haの農地を購入し、2010年より本格的に農業を開始しました。

SAJの農場では、化学肥料を使わず、現地で手に入る肥料を使って有機農業を行う「完全循環型有機農業」を目指しています。

2011年度は、「1haの循環型有機農業モデルの完成を目指した」水田45aを、水の抜けない水田にし、15aから253kgの米を収穫しました。また、畑地25aを造成し、野菜の試験栽培を行った結果、レモングラスが良く育つことが分かりました。

今後は、米の二期作を本格的に行うとともに、レモングラスの栽培に特化していきます。



田植えの様子

災害支援活動

SAJは、東日本大震災を受け、2011年3月より、災害支援活動を行いました。

これまでに、災害募金、宮城県への物資支援、岩手県陸前高田市へのボランティアの募集と派遣、陸前高田市復興街づくりイベントの後援、経営勉強会の開催などを行いました。

今後は、宮城県、岩手県(陸前高田市)から要請などがあれば、物資支援とボランティアの募集と派遣を再開することもあります。

SAJが行った災害支援活動に関しては、P14~15をご覧ください。

TOPICS

バングラデシュでの活動を開始

ワタミグループが支援するSAJと、渡邊美樹が理事長を務める学校法人都文館夢学園は、バングラデシュのNGO団体と協同して、現地に教育支援に入ります。カンボジアの教育支援と同様に、まず教育環境の向上を目指して、小学校校舎の建て替えをします。中学校の校舎も建設して、小・中一貫教育を行う予定です。そのために、SAJでは内閣府公益認定等委員会に学校の運営認定を申請し、認定許可が取れ次第、小・中学校の運営を始めます。

2012年4月には、バングラデシュに調査に行き、現地のNGO法や土地法などの法律を調べ、JICAや日本大使館、現地のNGO関係の役所を訪問しました。

2012年度前期は見学した小学校3校の建て替えをします。後期には4校の建て替えを予定しています。

NPO法人 Return to Forest Life

2006年より社員の有志で行っていた森を再生させる活動「森づくり」を、ワタミグループとして積極的に稼働させるため、2007年10月、NPO法人 Return to Forest Lifeが設立されました。現在は、ワタミグループのほぼ全社員がRFLの会員になるなど、多くの会員からの支援により、「美しい地球を子どもたちに残すため、ひとつでも多くの森を再生させたい」という思いのもと、千葉県山武市にある「ワタミの森」(面積9ha)を運営、管理しています。



NPO法人
Return to Forest Life
事務局長
小出 浩平

活動の基盤づくりから、活動拡大の一步を踏み出します。

2011年度、私たちは森林保全活動のNPO法人としての基盤づくりに力を入れました。専任事務局の配置、グループ全社員の会員参加と財務の安定化、森林調査に基づく保全活動、ペレットストーブ導入(材の有効活用)、定期的な環境教育の実施(千葉、静岡、大阪)などです。

2012年度は、一層の基盤強化と共に、活動目的(ひとつでも多くの森を再生させることに貢献)の実現を目指し、関与する森林の拡大に力を入れます。合わせて、グループ全社員への環境教育の場の提供も重要な活動と位置づけております。とは言うものの、森林に関するスキルが不足していますので、森林の専門家や各地域の皆様を支えられて活動していくことになり、その過程でスキルアップを図りたいと考えております。

水はぐみ、豊かな土をつくる森は全ての命の源です。この森を再生させることこそ、「美しい地球を美しいままに子どもたちに残していく」ことにつながると信じ、一歩ずつ着実に活動を続けてまいります。

「Return to Forest Life」設立趣意

人工林に手が入らない状態で放置されると、土砂の流出や水資源涵養機能の低下をもたらす、災害にも弱い森林になる恐れも出てくる。また、きちんと管理され生態系が維持された森は、きれいな水をつくり、災害に強い土壌をつくり、そして光合成を行うことによって二酸化炭素を吸収し酸素を作り出して、私たちが住んでいる地上を住みやすい環境に維持してくれている。

私たちの森づくりでは、このように荒廃している山林を適切な管理を施すことにより少しずつ元の姿に戻し、たくさんの生き物達を森に呼び戻すことを主な目的とする。多くの生き物にとって森はふるさとであり、そのふるさとである森を次世代の子どもたちに健全なかたちで引き継いでいきたいと考える。

活動目的

「美しい地球を子どもたちに残すため、ひとつでも多くの森を再生することに貢献する」

活動方針

1. 不健全な森林を再生させる
2. 森林の資源の有効活用
3. 環境教育への貢献

不健全な森林を再生させる

日本は国土面積の約3分の2が森林であり、その約4割が杉・ヒノキなどの人工林であると言われています。その人工林のうちさらに約4割が人の手が入らず不健全な状態(全森林の約16%、約400万ha=九州の面積)にあります。この不健全な人工林を適正に管理(間伐、下草刈り、枝打ち、植樹など)することによって、多様な生き物たちが存在する里山のような自然林、あるいは健全な人工林に再生させる活動を行います。

RFLは2011年度、ワタミの森において517本を間伐し、その空間に新しい命として1,525本を植樹、森に日差しが入るよう改善しました。



間伐前の暗い森



間伐後の明るい森

森林資源の有効活用

森林の再生活動により倒木される間伐材は、活用せずに放置すると腐敗してCO₂を排出するだけでなく、土砂崩れなどの災害の原因となります。この倒木された間伐材を適正に活用することによって、森林再生活動を促進させ、国産材の自給率向上、海外森林の違法伐採の防止に貢献し、その結果として、関係する地域産業に貢献することになると考えています。

- バイオマスプラスチック箸
間伐材の樹皮と端材55%とポリプロピレン(樹脂)45%を混合してつくりました。
- 公益財団法人SAJの募金箱に活用(2011年6月より)
福祉作業所で製作していただいています。
- 介護施設での活用
内装材料やペレットストーブの燃料として使用されています。
- 株式会社カウネット様による備品販売
ワタミの森の間伐材から店舗用備品を製作し、販売していただいています。

環境教育への貢献

環境活動、地球資源(森林)保全への貢献において、もっとも大切なことは、環境負荷を出す人の行動が変わることです。RFLは、ワタミグループ社員を含め、すべての人に対する環境教育の場の提供に貢献していきます。

2011年度は、1,582名の方に環境教育に参加していただきました。また、2011年度は、ワタミ手づくり厨房周辺への植樹作業や、地域のNPO法人にご協力いただき、ワタミの森だけでなく、大阪府能勢町、静岡県掛川市での環境教育も実施しました。

参加した方からは「森と自分が繋がった気持ちになる」「30年先まで考えるきっかけになる」などの感想をいただき、何度でも参加して下さる方もいらっしゃいます。

2012年度もより多くの方に参加していただきたいと考えています。

RFLが行っている環境教育

- 安全講習・フィールド(森の様子)案内
1 安全第一で活動を行えるように、間伐作業の注意点などを伝える安全講習を作業前に行います。その後、森林の再生活動への理解を深めるために、森の中を歩きながら、手入れが進んでいる様子や病気の木を実際に見ていただいています。
- 間伐作業
2 森の中に日差しが入るよう意識しながら、病気の木から間伐を進めています。間伐後、1本の杉を運べる大きさに切る「玉切り」を行います。
- 植樹作業
3 光があたる場所に新しい命(苗木)を植樹しています。苗木は日本に古来からあるシイ・カシ・タブ類で種類を混ぜて密植しています。どんぐりから約2年かけて育てられた苗木の根ははりが強く、密植させることで互いに競争し育つため、通常よりも早く森づくりができるといわれています。

2011年度 ワタミの森での活動

□2011年8月 森林資源調査の実施

森林再生を手掛ける株式会社森林再生システム様の指導のもと、目標とする森林の形や施工方針を決定するための調査を行い、森林の状態を把握。2011年度は作業道(車両が材を搬出するための道)と土場(材の集積場所)の整備、林内の残材搬出を中心に行うことを決めました。



森林資源調査の様子

□2011年9月~11月 作業道の整備

会員、ボランティアの方と一緒に、森の中に1本の作業道をつくりました(幅2m、長さ150m)。下草を刈り、間伐をし、タイヤが沈まないように杉の枝を敷き詰めました。

□2011年11月 土場の設置

地元の業者様にご協力いただき、森の入り口に土場を完成させました。



森の入口に完成した土場

□2012年1月 林内の残材を搬出

2006年に活動を開始してから、林内に放置せざるを得なかった残材、約100tを搬出しました。ただ腐らせるのではなく搬出することで、状態の良い材は建材に活用することができます。状態の悪い材はチップやペレット、堆肥への活用を検討しており、現在試験中です。



林内の残材を搬出の様子

RFL ホームページ…<http://www.returntoforestlife.or.jp/>

NPO法人 みんなの夢をかなえる会

みんなの夢をかなえる会は、2010年11月に特定非営利活動法人の認証を取得しました。本来、夢をもつことは、平等に与えられた人間の権利です。しかし、その権利が何らかの理由で持てない人々が世界にはたくさん存在します。すべての人々が平等に夢をもつことを与えられる社会を創造することを目指します。



NPO法人
みんなの夢をかなえる会
専務理事/事務局長
中川 直洋

夢溢れ“ありがとう”が飛び交う社会の実現に向けて

「NPO法人 みんなの夢をかなえる会」は、みんなの夢でよりよい社会を創造することにあります。「未来の名刺」の普及活動、「みんなの夢シンポジウム」、「みんなの夢アワード」の開催が主な活動内容です。5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろうというコンセプトのもと、若者を中心に「未来の名刺」には現在、1,500名以上が登録しています。また、みんなの夢と社会活動を考える「みんなの夢シンポジウム」は、全国各地で開催し、7,242名の皆さまが参加しました。

2010年に始まったすてきな夢に贈られる「みんなの夢 AWARD」は、みんなをワクワクさせ、みんなが夢をもちたくなるをコンセプトに開催され、2011年は中野サンプラザにて2,300名が参加しました。優勝者は、「日本の農業を変える復興仕掛け人」佐藤博文さんと、ワタミグループからも2,000万円の支援を決定し、本格的に活動しております。3回目となる今回は会場を日本武道館に移し、観衆8,000人、協賛企業50社の前で夢のプレゼンテーションを行うイベントとなります。「あなたの夢を、企業がみんなが応援する。募集日本一の夢」をキャッチに展開します。特定の条件をより高いレベルで満たした者に、優勝と共に夢の支援金などの副賞が与えられるだけでなく、優勝者以外にも様々な支援が得られるチャンスのあるイベントです。

みんなの夢 AWARD3の目的は、①若者を中心とした参加者の夢実現へ向けた「キッカケの場所」の創出、②若者と企業人、両者にとって次の社会の幕を開ける起爆剤としての役割、③社会の変化、若者に対する応援を求める企業姿勢を提示する場の創出にあります。

みんなの夢 AWARD3を通じて、よりよい社会を作っていきたいと思えます。

「みんなの夢をかなえる会」設立趣意

人が生きていくということは、周囲の人々や、動植物を含めた地球上のあらゆる環境に、日々支えられていることを意味しています。それならば、それに合う責任を果たすため、自分の存在をよりよくしたい、自分の価値を高めたいと思うことは当然のことです。人が生きていくなかで、どれだけ多くの人の幸せにかかわれたか、それこそが自分の存在を高めることであり、その指標が「存在対効果」です。

人生の目的は、この「存在対効果」を高めることにありと私たちは考えます。存在対効果を高めるためには、「己の人間性を向上させること」が必要です。人間性を向上させることは、社会で生活するすべての人に共通する使命であると私たちは信じています。

豊かな国に生まれようと、貧しい国に生まれようと、人にはそれぞれ生まれてきた意味があるのです。人は遺伝によって与えられた「それぞれの美しい資質」を磨き高めるために生まれてきたと私たちは考えます。

人間性を高め、持って生まれた美しい資質を高めるために大切なこと。それが、夢を持ち、その夢をかなえようと懸命に努力するプロセスであると、私たちは考えます。

私たちは「一人でも多くの人々に“夢”の素晴らしさを認識してもらい、“夢”をもち、“夢”を追いかけるためのきっかけを提供する」ことを目的とした特定非営利活動法人「みんなの夢をかなえる会」を設立し、啓蒙・教育・支援活動を行います。

活動目的

「みんなの夢をかなえる会」は、「多くの若者が、自分と社会の未来に“責任”をもつ“夢”を実現できる社会にしたい」という考えのもと、人・地域・日本の活性化を図ることをミッションに掲げています。「夢をかなえるきっかけ」を世の中に広く訴求し、「夢の途中」の人々を応援します。

活動方針

1. みんなの夢シンポジウム
(みんなの夢と社会貢献を考える)
2. 未来の名刺プロジェクト
(5年先の自分の名刺で夢の発信)
3. みんなの夢アワード
(夢を語り、夢を実現させる活動)

「みんなの夢シンポジウム」

「みんなの夢シンポジウム」は、「夢溢れ、ありがとうが飛びかう社会」を目指し、「みんなの夢」と「社会貢献」を考えるシンポジウムです。「渡邊美樹と考える『みんなの夢』」をテーマに、2011年度は、東京を中心に全国7カ所にて7,242名の方々にご参加いただきました。2012年度は、6月30日の両国国技館を皮切りに、全国で8回に亘り開催します。参加者の皆さんと夢の大切さを共有し、みなさんと一緒に元気になれるようなシンポジウムを目指しています。

「未来の名刺プロジェクト」

「未来の名刺プロジェクト」は、夢の実現に役立つ場となること、まだ夢が見つからない人が夢を見つけるためのヒントを得られる場となることを目的として生まれました。

WEBサイト「未来の名刺」では、「5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろう」というコンセプトのもと、すてきな夢を持つ方々にその夢を投稿していただけます。(5年先の肩書きで名刺を作成し、5年先への道のりを作成していただけます。)

投稿された夢は「未来の名刺」としてWEBサイトに掲載されます。「未来の名刺」に掲載されると、「みんなの夢アワード」にエントリーすることができます。

未来の名刺ホームページ <http://www.miraimeishi.net/>

□「未来の名刺講座」の開催

みんなの夢をかなえる会では、「未来の名刺講座」をあらゆるところで開催しています。東京都渋谷地区の小学校では、6年生の授業として「未来の名刺」をテーマに、渡邊美樹の著書「こうすれば社長になれる」(小学館)を教材として開催しています。また、大学でもゼミ単位で開催しています。



「みんなの夢アワード」

「みんなの夢アワード」とは、みんなをワクワクさせ、みんなに夢を与えるすてきな夢に贈られるアワードです。みなさんの夢をWEBサイトで募集し審査、そして、「みんなの夢アワード」で表彰します。

審査の基準は①みんなをワクワクさせ、世界をちょっと良くする夢であること ②夢を具体的に描き、かなえるための計画をたてていること ③毎日、夢に向かって少しずつでも前進していること です。

アワード受賞者には、渡邊美樹および「みんなの夢をかなえる会」が夢の実現に向けて積極的にサポートします。

「みんなの夢アワード2012」のご報告

2012年1月、みんなの夢をかなえる会は、2回目となる「みんなの夢アワード」を中野サンプラザにて開催しました。アワード受賞者への夢のサポートは、ワタミグループからの最大2,000万円の資金提供と、渡邊美樹による経営指導とし、当日は、多くのエントリー者の中から選考を勝ち抜いてきた6名が、約2,300名の来場者が見つめる中、自らの夢についてプレゼンテーションを行いました。来場者全員による投票と選考委員による選考の結果、きのこのSATO販売株式会社の佐藤博文さんがアワードを受賞しました。

◆きのこのSATO販売株式会社 佐藤 博文さん◆

「地元である陸前高田を『震災の街』ではなく、『きのこの街』と呼ばれる街にする」と語られた佐藤博文さん。佐藤さんは、被災地での生活の中でも、もう一度、自らのきのこ栽培を通して雇用を生み出す計画を進めています。それが延いては復興のためのモデルになると、夢を語りました。

◆梶ヶ山 健之さんが、特別賞を受賞◆

ハイレベルなプレゼンテーションに選考が難航したことから、当日、急遽「特別賞」が設定されました。こちらは、ワタミタクシヨクの社員である梶ヶ山さんが受賞しました。梶ヶ山さんは、アメリカの自然あふれる田舎に買った広大な土地に夢センターをつくり、世界中から子どもたちをよんで自分の夢を見つける、本物の留学体験してもらいたいと、自らの夢を語りました。



「みんなの夢 AWARD3」を開催

2013年1月30日、「みんなの夢 AWARD3」を、スポーツや文化・芸能の世界において夢の象徴である日本武道館で開催することを決定しました。

この「みんなの夢 AWARD3」では、夢と仕事をつなげ、人と社会をつなげ、夢イベントの最高のエンターテインメントを目指します。社会に、若者に、影響力のあるイベントに作り上げていくことを目指しています。

また、特別協賛企業、協賛企業として、業界を代表する企業50社を計画しています。発表内容に対して、協賛企業が直接支援を表明したり、参加学生が5年後の夢を記載した未来の名刺を使い、協賛企業トップや役員と名刺交換などができる場をつくることを計画しています。



みんなの夢をかなえる会ホームページ…<http://minnanoyume.org/>